今月の特集

【業務用向け販売量について】

主食用米の消費量の約３割を占める業務用米の実態を把握するため、平成27年７月から平成28年６月までの１年間において、年間玄米取扱量4,000トン以上の販売事業者が、精米販売を行った数量（約340万トン）のうち、中食・外食等の業務用向けに販売した数量（産地品種銘柄別）について、調査を実施。
（調査対象業者234社　回収率94%）

－ 本調査にご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。－

＜当データを見る上での留意事項＞

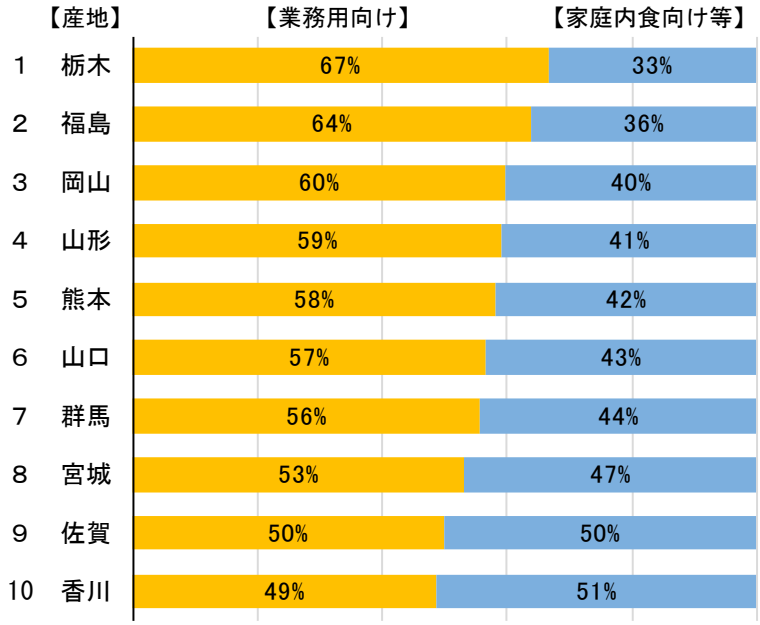
- 年間玄米取扱量4,000トン以上の販売事業者が、業務用向けに精米販売した数量であり、小売店等に精米販売し、その後、業務用に仕向けられたものは含まれていない。
- 業務用向けの販売先は、ｺﾝﾋﾞﾆｴﾝｽｽﾄｱ、ｽｰﾊﾟｰ、弁当屋、給食事業等の中食事業者及び牛丼、回転寿司等のﾌｧｰｽﾄﾌｰﾄﾞ店、ﾌｧﾐﾘｰﾚｽﾄﾗﾝ、ﾎﾃﾙ等宿泊施設等の外食事業者である。
- 業務用向けには、主に米卸売業者から供給されるが、家庭内食向けには、米卸売業者経由の他に農家直売や縁故米等からも供給されるため、米卸売業者からの供給量のみで作成した当データは、業務用向けの割合が高く出る傾向がある。

1　県産米に占める販売先割合（業務用向けの販売割合が高い上位10県）

- 年間玄米取扱量4,000トン以上の販売事業者が精米販売を行った数量のうち、約４割が業務用向けに販売されている。
- 栃木、福島、岡山では６割以上が業務用向けに販売されている。

注：家庭内食向け等とは、精米販売量全体から業務用向け販売量を差し引いたものである。

業務用向けの販売割合が高い上位10県



2　県産米に占める販売先割合（全体版・産地品種銘柄別内訳）

（平成27年産主食用米生産量５万トン以上の産地）

産地	業務用向け（産地品種銘柄別内訳）					家庭内食向け等
北海道	27%	ななつぼし 12%	きらら397 7%	その他 8%		73%
青森	41%	まっしぐら 31%	つがるロマン 10%	その他 0%		59%
岩手	37%	ひとめぼれ 34%	その他 4%			63%
宮城	53%	ひとめぼれ 49%	その他 4%			47%
秋田	22%	あきたこまち 12%	ひとめぼれ 4%	その他 5%		78%
山形	59%	はえぬき 51%	ひとめぼれ 4%	その他 4%		41%
福島	64%	コシヒカリ 44%	ひとめぼれ 12%	天のつぶ 3%	その他 4%	36%
茨城	44%	コシヒカリ 36%	その他 7%			56%
栃木	67%	コシヒカリ 51%	あさひの夢 10%	その他 5%		33%
群馬	56%	あさひの夢 42%	ゆめまつり 9%	その他 5%		44%
埼玉	40%	彩のかがやき 13%	彩のきずな 10%	コシヒカリ 10%	その他 7%	60%
千葉	28%	ふさこがね 12%	コシヒカリ 10%	ふさおとめ 4%	その他 2%	72%
新潟	20%	コシヒカリ 14%	こしいぶき 5%	その他 1%		80%
富山	27%	コシヒカリ 21%	てんたかく 4%	その他 2%		73%
石川	39%	コシヒカリ 21%	ゆめみづほ 14%	その他 5%		61%
福井	27%	コシヒカリ 13%	ハナエチゼン 5%	その他 9%		73%
長野	38%	コシヒカリ 32%	あきたこまち 5%	その他 1%		62%
岐阜	36%	ハツシモ 23%	その他 14%			64%
静岡	12%	コシヒカリ 5%	その他 7%			88%
愛知	25%	あいちのかおり 17%	コシヒカリ 4%	その他 4%		75%

産地	業務用向け（産地品種銘柄別内訳）					家庭内食向け等
三重	22%	コシヒカリ 10%	その他 12%			78%
滋賀	36%	キヌヒカリ 11%	日本晴 7%	コシヒカリ 7%	その他 10%	64%
京都	34%	コシヒカリ 24%	キヌヒカリ 8%	その他 2%		66%
兵庫	15%	コシヒカリ 6%	キヌヒカリ 4%	その他 6%		85%
鳥取	31%	きぬむすめ 15%	ひとめぼれ 9%	コシヒカリ 7%	その他 0%	69%
島根	34%	コシヒカリ 19%	きぬむすめ 11%	その他 4%		66%
岡山	60%	アケボノ 31%	ヒノヒカリ 6%	その他 23%		40%
広島	42%	コシヒカリ 18%	あきろまん 5%	ヒノヒカリ 5%	その他 14%	58%
山口	57%	コシヒカリ 16%	ひとめぼれ 15%	ヒノヒカリ 14%	その他 12%	43%
徳島	26%	キヌヒカリ 14%	コシヒカリ 9%	その他 3%		74%
香川	49%	ヒノヒカリ 35%	その他 14%			51%
愛媛	15%	ヒノヒカリ 4%	その他 10%			85%
高知	11%	コシヒカリ 9%	その他 2%			89%
福岡	34%	ヒノヒカリ 14%	元気つくし 9%	夢つくし 7%	その他 4%	66%
佐賀	50%	ヒノヒカリ 21%	さがびより 16%	夢しずく 10%	その他 2%	50%
長崎	12%	にこまる 4%	ヒノヒカリ 3%	その他 5%		88%
熊本	58%	ヒノヒカリ 14%	森のくまさん 8%	コシヒカリ 5%	その他 32%	42%
大分	33%	ヒノヒカリ 23%	その他 10%			67%
宮崎	12%	ヒノヒカリ 6%	コシヒカリ 3%	その他 3%		88%
鹿児島	21%	ヒノヒカリ 12%	あきほなみ 7%	その他 2%		79%

注：業務用向けの販売先は、ｺﾝﾋﾞﾆｴﾝｽｽﾄｱ、ｽｰﾊﾟｰ、弁当屋、給食事業等の中食事業者及び牛丼、回転寿司等のﾌｧｰｽﾄﾌｰﾄﾞ店、ﾌｧﾐﾘｰﾚｽﾄﾗﾝ、ﾎﾃﾙ等宿泊施設等の外食事業者である。

3　全国の業務用向け販売量に占める産地品種銘柄別割合（上位20産地品種銘柄）

・　北海道、東北など主産地の米が上位を占めており、とりわけ「山形はえぬき」、「宮城ひとめぼれ」、「栃木コシヒカリ」の３銘柄で業務用向け販売量全体の約25%を占めている。

	産 地	品種銘柄	業務用販売量全体に占める割合（※）
1	山 形	はえぬき	9%
2	宮 城	ひとめぼれ	9%
3	栃 木	コシヒカリ	7%
4	福 島	コシヒカリ	5%
5	茨 城	コシヒカリ	4%
6	北海道	ななつぼし	4%
7	青 森	まっしぐら	4%
8	岩 手	ひとめぼれ	4%
9	秋 田	あきたこまち	3%
10	北海道	きらら397	2%

	産 地	品種銘柄	業務用販売量全体に占める割合（※）
11	新 潟	コシヒカリ	2%
12	栃 木	あさひの夢	1%
13	富 山	コシヒカリ	1%
14	長 野	コシヒカリ	1%
15	福 島	ひとめぼれ	1%
16	青 森	つがるロマン	1%
17	千 葉	ふさこがね	1%
18	秋 田	ひとめぼれ	1%
19	石 川	コシヒカリ	1%
20	千 葉	コシヒカリ	1%

※　業務用販売量全体に占める割合とは、各産地品種銘柄ごとの業務用向け販売量を、全国の業務用向け販売量で除したものである。

4　価格帯別販売量

・　業務用向けに販売された産地品種銘柄ごとに、平成27年産米の相対取引価格（年産平均）を用いて、価格帯別の販売量をみると、15,000円/60kg以上の高価格帯銘柄も販売されているが、13,000円/60kg未満の銘柄が約８割販売されており、低価格帯での取引が大宗を占めている。

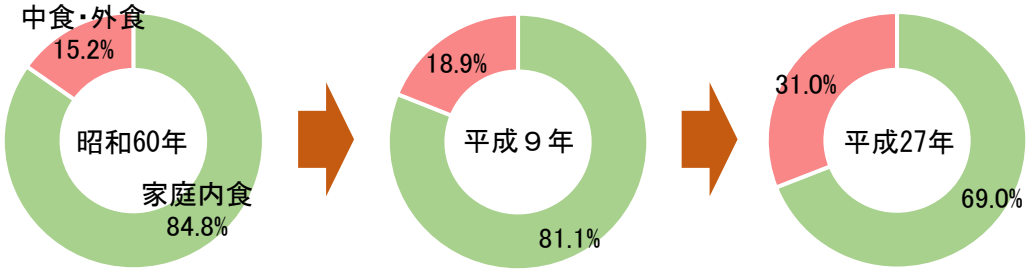
価格帯（税込み）	業務用販売量全体に占める割合
15,000円/60kg以上	5%
14,000円/60kg以上15,000円/60kg未満	4%
13,000円/60kg以上14,000円/60kg未満	13%
12,000円/60kg以上13,000円/60kg未満	62%
12,000円/60kg未満	16%

27年産全銘柄平均価格
13,175円／60kg（税込）

参考１　業務用の需要動向

・　中食・外食等の業務用需要は、今後も堅調な需要が期待される。

【米の消費における家庭内及び中・外食の占める割合】

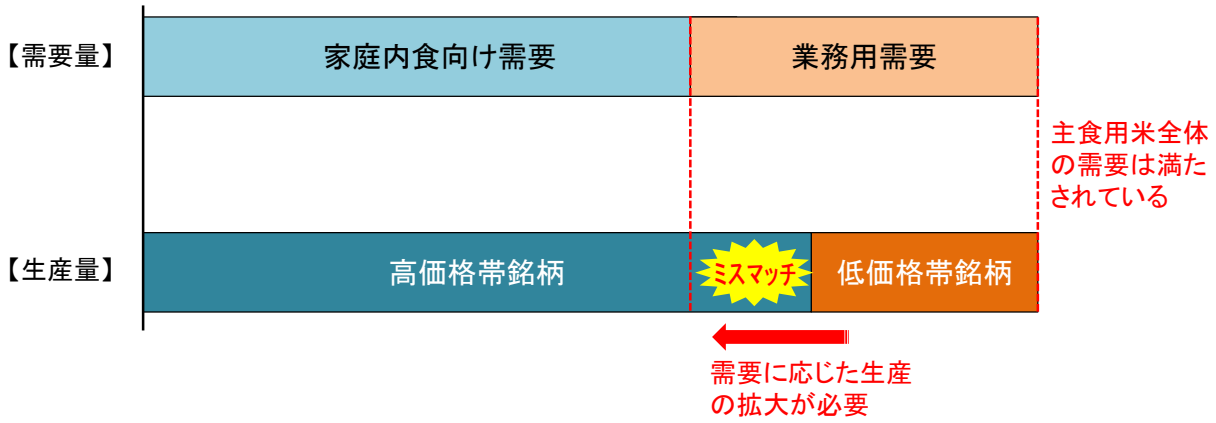


資料：農林水産省「米の１人1ヶ月当たり消費量」及び米穀機構「米の消費動向調査」

参考２　主食用米の需要に応じた生産

・　主食用米全体の需要は満たされているが、中食・外食等の実需者が求める銘柄や価格帯と実際に生産される銘柄の間にミスマッチが生じており、この状況を放置すると、国産米の需要減少が加速する恐れ。

・　中食・外食等の実需者と産地との間で、実需サイドが求める銘柄や価格帯を踏まえて、複数年契約・事前契約などの安定取引を拡大していくことが重要。



※　現在、中食・外食事業者に対し、平成29年産米の使用希望数量等について、アンケートをお願いしているところであり、その結果につきましては、平成29年３月発行のマンスリーレポートで公表させていただく予定です。